スコーレ映画サロンのお知らせ Vol.314

◆日　時：2026年10月25日（日）14：00～18：00
◆会　場：名古屋国鉄会館
（わからない方は10分前にスコーレに集合またはお問合せください）
※映画サロンは禁酒禁煙です
◆参加費:1000円（初参加の方は無料です）

課題映画

▷私の知らない子どもたち
（10/16より ミッドランドスクエアシネマ他にて公開）
▷DIGGER
（10/9 より　ミッドランドスクエアシネマ他にて公開）

サロンメモ

「白鳥とコウモリ」。普段は◯◯監督がー、という声が多いのに今回は東野圭吾がーという切り出し方がかなり多くて苦笑してしまった。ま、それだけ作家として映画原作者としてビッグネームって事だろう。意見としてはこの手の映画にありがちなものが予想通り多かった。ミステリーとして杜撰、経緯がよくわからない等。被害者と加害者の子供同士があんな関係になるのは納得出来ないとも。一方、岸善幸監督や脚本の向井康介の手腕を評価する意見も多数出た。私も娯楽作としてケレン味たっぷりで十分満足した。
「時には懺悔を」。本物の障害児を出演させる中島哲也監督の凄腕演出を中心に、それぞれの登場人物の人生の重みが汲み取れてよかったという意見が大勢を占めた。黒木華の演技とキャラクターを絶讃する声も。一方、登場人物たちの設定が気色悪いとの意見や、あの子の治療費は無保険で払えないのではという現実的な疑問も出た。そして監督のパワハラ問題の影響により素直に見られなかったという意見もやはり出た。しかし全体では高評価。「白鳥とコウモリ」もそうだが、ストーリー上の多少の躓きは映画そのものの評価を妨げるものではない証しのような両作品だった。
次回は課題にしたい映画が多過ぎて迷ったが、西川美和作品とイニャリトゥ作品。どちらも期待特大。（小西）

9/27(日) サロン参加者	時には懺悔を	白鳥とコウモリ	私はあなたを知らない、	平行と垂直	オデュッセイア	ルックバック	ヒンド・ラジャブの声	踊る大捜査線 N.E.W. メトロポリスを駆け抜けろ！
加藤　賢二	5	3			3			
田中　健一	5	3				3	5	
高橋　広河	4	4	5	4	3	4		3
牧野　鐘徳	3	5	4	5	4	4	5	1
山本　正明	4	4	4		5	4		3
横井　清	5	4	4	4	4	4		
岡村　昌俊	4	2					3	
白石　麻由子	5	4		4			3	
榊原　隆裕	5	5		4			5	
井上　章	5	4	5		4	4		3
三田　正継	5	3	5	5			5	2
平林　正明	5	5						
斎藤　文彦	5	5			5		5	5
小西　孝直 （スコーレサロン　代表）	5	4		3	3	3	5	
坪井　篤史 （スコーレ　支配人）	5	4	4	4	4	3		4
木全　純治 （スコーレ　代表）	5	4		3	4	4		

初めて参加される方は参加費無料！10分前にシネマスコーレまでお越しください。